



平成 30 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 MRK ホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 岩本 眞二
(コード 9980 東証二部)
問 合 せ 先 取締役執行役員経営企画部長
中 研 悟
(TEL 06-7655-5000)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 30 年 5 月 14 日に公表した平成 31 年 3 月期の連結業績予想について、下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。なお、年間配当予想額（期末配当 1 株当たり 1 円）の変更は予定しておりません。

記

1. 連結業績予想

平成 31 年 3 月期 連結業績予想数値の修正（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	19,300	1,400	1,200	800	7.90
今回発表予想 (B)	18,600	145	△110	△390	△3.85
増減額 (B-A)	△700	△1,255	△1,310	△1,190	△11.75
増減率 (%)	△3.6	△89.6	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (C) (平成 30 年 3 月期)	14,916	900	771	1,528	16.05
増減額 (B-C)	3,684	△755	△881	△1,918	△19.90
増減率 (%)	24.7	△83.9	—	—	—

2. 修正の理由

平成 31 年 3 月期、当社グループは、女性の皆様が輝く人生を過ごしていただけるよう“美”に関する多様なサービスを提供する『美の総合総社』の実現に向け、新たに中期経営方針として『Maruko Avenir Project 2020』（現『MAP2020』 ※Avenir=未来、当社グループの未来に向けた体制を確立していく）を掲げ、より多くのお客様に、より便利で安心していただける環境で、より多くの魅力的な製商品・サービスをご提供させていただける体制を構築するために、積極的な投資を行ってまいりました。

主な取り組みといたしましては、新たなお客様の獲得と既存のお客様の活性化を目的として、「新たなテレビ CM の展開などプロモーションの強化による認知度の向上」、「新規出店・既存店舗リニューアルとともに、店舗スタッフ（ボディスタイリスト）の人員拡充による顧客満足度の向上」を促進いたしました結果、当上半期における新規来店者数（前年同期比 31.7%増）、及びアクティブ顧客数（購入者数）ともに順調に増加（前年同期比 12.6%増）いたしました。

さらに、新たなサービス提供に向けて、新規事業開発の調査・検討を積極的に実施いたしました。

しかしながら、以下の通り当上半期の業績が一時的に悪化したことに鑑み、当下半期に大きく改善を見込むも通期業績予想を修正するものであります。

<上半期の概況>

婦人下着の販売及びその関連事業において、中長期的な成長への基盤となる集客力と店舗網の拡充に向けた出店・改装、ボディスタイリスト（店舗販売社員）の採用など先行投資を推進する中、その先行投資をカバーし、前年同期の営業利益 514 百万円を上回るべく、上記記載のとおり新規顧客及びリピート顧客ともにお客様の着実な増加を実現いたしました。しかしながら、前期より導入した新たな基幹シリーズである『カーヴィン

ヤス』がおお客様からの大きな支持を集めながら、当第1四半期より『カーヴィシヤス』に対する旺盛な受注に対して生産が追い付かず、その遅延解消に向け生産体制の拡張に取り組んだものの、当上半期に間に合わせる事ができず、需給の完全解消が10月上旬にまで遅れました。この需給ギャップの解消までの期間において、旧基幹シリーズ『カリーユ』などの割引販売やポイント付与の拡大など購入特典を充実させることで売上確保に努めましたが、値引きの割合が高まったことから売上が伸び悩むとともに売上総利益率（計画52.8%に対して実績46.5%）が一時的に低下いたしました。

さらに、当第2四半期に立て続けに発生した西日本豪雨や大阪、北海道での地震、台風により一部地域において販売に影響を受けるとともに、『カーヴィシヤス』の生産工場の一部が浸水被害を受け、生産拡張が遅れが生じました。

上記の要因により、売上総利益が大きく見込みを下回る一方、新たなテレビCMなどプロモーション強化や店舗網の拡充等による先行投資は、『カーヴィシヤス』の生産遅延の解消を想定し、より多くのおお客様の獲得を目指すとともに、ご満足いただける環境を提供することを目的に期初計画を上回って集中的に実施いたしました結果、当上半期は、営業損失5億19百万円、経常損失5億65百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失7億4百万円となりました。

<下半期の見込み>

当下半期は、主力の婦人下着の販売及びその関連事業において、基幹シリーズ『カーヴィシヤス』の生産体制の整備が10月上旬まで遅れた影響はあるものの、概ね当初計画どおりに推移できるものと見込んでおり、以下の施策により当上半期に対して売上、利益ともに大きく改善し、平成25年3月期に決算期変更を行って以降、下半期営業利益としては最高の6億64百万円を見込んでおります。なお、主力の婦人下着の販売及びその関連事業においては、平成30年10月単月の売上高が前年同月比44.4%増と好調なスタートを切っております。

① 顧客単価及び売上総利益率の改善

婦人下着の販売及びその関連事業において、10月上旬に『カーヴィシヤス』の生産体制が整い、納品遅延が完全に解消したことにより、製商品の販売構成において値引き販売品の構成比率を適正に抑制することから、上半期に比較して顧客単価の向上、売上総利益率（上半期実績46.5%に対して下半期見込み52.1%）の改善を見込んでおります。

② 集客力の向上

当上半期に獲得したお客様のリピート来店とともに、お客様からのご紹介が継続的に伸びており、また、プロモーションによる集客ノウハウも着実に蓄積できており、上半期に引き続き集客力の向上を見込んでおります。

③ 経費の見直しによる成長への継続投資

店舗拡大及び新規事業開発など中長期的な成長を見据えた人員確保による人件費の増加や近年の物流コストや店舗内装工事費用の増加など、一定の経費増加を見込んでいるものの、当下半期においてはプロモーション及び出店・改装計画などの見直しを行うことで、対売上高販管費率（当上半期実績52.5%に対して当下半期見込み45.5%）の低減を図り、本来の収益構造への改善を推進してまいります。

一方、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益では、株主様の数（平成30年3月末：46,211名 ⇒ 平成30年9月末：52,221名）が想定を上回って推移しており、株主優待費用の増加を見込んでおります。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上